



平成30年度 施政方針

2月26日に開催された市議会本会議で、木山耕三市長が平成30年度の施政方針を述べました。その一部を抜粋して紹介します。(全文は市ホームページに掲載しています)

1. はじめに

2期目のスタートを切った平成29年度は、3月24日にオープンします「国営備北丘陵公園北入口エリアの社会実験事業」や1月に供用を開始しました「有害鳥獣処理施設」に加え、「和牛TMRセンター」のほか、「比婆いざなみ街道マラニック」の開催など、第1期中に築いてまいりました取り組みを、成果として目に見える形でお示しすることができたものと受け止めております。

とりわけ、市内での「産科再開」は市民の皆さんと一緒に喜ぶべき大きなニュースでございます。合併時の平成17年に庄原赤十字病院での産科が休止となり、市内で出産できる医療機関がなくなったことは、本市の将来に大きな不安を投げかけました。私は市長就任以来、人口減少抑制と将来の本市を担う若者定住のためには、子育て支援の充実が不可欠であり、特に、安心して子どもが産産できない環境は、極めて重要な課題であると認識し、市内での産科再開に向け、庄原赤十字病院、広島県と連携を図り、広島大学等の関係機関へ精力的な要望を行ってまいりました。

さらに、安心が実感できる子育て環境を構築する「子ども未来広場整備構想」を立案し、小児科医師の誘致をはじめとする、小児科診療所および病児病後児保育施設など、産科再開へ向けた環境整備を進めてきたところでございます。こうした取り組みが実を結び、いよいよ新年度より、悲願でありました市内での産科が13年ぶりに再開する見通しとなったところでございます。いったん分娩が休止となった自治体で、産科が再開される事例は珍しく、県内では初めてとなりますが、このたび、喜ばしい結果に至りましたことは、関係機関ならびに市民の皆さん、議員各位のご理解とご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

2. 市政運営の基本方針

●「第2期長期総合計画」に基づく施策の着実な推進
本市の人口は、昭和22年以降減少が続き、今後も減少することが見込まれております。人口の減少は、地域全体を負のスパイラルに陥らせることから、本市の最も重要な課題と捉え、その抑制に向けた総合的な取り組みの継続・強化に努めているところでございます。定住施策を利用した市外からの新規定住者の状況を申し上げますと、平成28年度本市への新規定住者は、県内では世帯数が2番目に多く、定住者数は最も多くなっております。平成29年度におきましても平成28年度の実績を上回る見込みでございます。



市役所本庁舎懸垂幕

3. 庄原いちばんづくりの主要事業

●地域産業のいちばん
▼新たな可能性で切り開く持続的な地域産業の構築
和牛TMRセンターの円滑な運営のための支援を継続し、和牛農家の経営安定化や転作等による水田の有効活用につなげてまいります。また、市内の中小企業者に対し、「人材育成」「販路拡大」「創業」などの分野に資する支援制度に加え、新たに創設した「研究開発」分野への支援により、商工業の振興、地域経済の活性化を図ってまいります。
▼地域資源を活用した新たな「食の魅力」ブランドデザイン
比婆牛のブランド力をより一層高め、価格向上や増頭につなげるため、地域団体商標を生かした市場開拓のほか、生産基盤の強化に対する支援を継続すると

みとなっており、本市の定住促進施策が着実に実っていると自負しております。また、本市の人口減少率は、近年、縮小傾向で推移しており、引き続き「第2期長期総合計画」に基づき、定住をはじめ、産業交流、基盤整備、福祉医療、教育などの総合的な施策の着実な実施とともに、官民一体となったオール庄原の力を結集し、人口減少の克服に立ち向かってまいります。

●「庄原いちばんづくり」の進化

市長に就任して以来、「やっばり庄原がいちばんええよのお」と思えるまちづくりを推進してまいりました。「地域産業」「暮らしの安心」に「ごわい」と活力」を柱とした施策・事業の展開に

より、比婆牛ブランドの復活、産科再開のほか、本市への総観光客数が過去最高の287万5千人を記録するなど、随所に手応えも感じているところでございます。一方で、本市の抱える課題は山積しており、さらに、わが国全体が本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、今後、社会構造に大きな変化が予想される中、市民生活への影響を見極め、いかにして対処するかが重要であると認識いたしております。

このため、昨年2月に策定いたしました「庄原いちばんづくり」を一層進化させる必要があることから、これまでの取り組みを継続・充実させるとともに、本市に眠る新たな資源を掘り起こし、時代の変化に対応した新たな施策として磨き上げ、育てる取り組みを重点的に強化・促進してまいります。なお、「庄原いちばんづくり」の進化に向け、組織機構の見直しにより、いちばんづくり課を1課1係に再編し、重要施策等を集中的かつ横断的に推進する専門部署として強化を図ることとしております。

●「第2期持続可能な財政運営プラン」の着実な取り組み

人口減少および合併算定替えの特例措置縮減による普通交付税の大幅な減額などにより、平成30年度以降における収支バランスの維持が危惧されることから、持続的・安定的な行政サービスの提



市の取り組みが評価され総務大臣表彰





国営備北丘陵公園北入口エリア「里山の駅庄原 ふうり」オープン



JA全農ひろしま和牛TMRセンター竣工

ともに、引き続き、地理的表示保護制度「GI」への登録を進めてまいります。
また、全国のコンクールで高い評価を受けている庄原産「こだわり米」の販売促進等を支援することにより、高価格化と生産拡大、そして庄原産米の知名度向上につなげてまいります。

さらに、県立広島大学へ研究をお願いしております。本市に適したワイン用ぶどうの品種を選定し、早期の事業化に向けた取り組みを進めるほか、山林整備と特用林産物の生産増進を目的とした、マツタケ山の環境整備に対する奨励制度を継続し、庄原産マツタケの復活を目指してまいります。

加えて、有害鳥獣処理施設において処理する、ジビエ肉のブランド化への取り組みを進めることとしております。

▼技術革新による産業モデルの構築と雇用基盤の確立
ドローン活用推進事業を拡充し、農業・観光分野における課題解決・魅力向上に資する新技術の構築と地域経済の活性化に努めてまいります。

また、働き方改革推進の高まりを背景として、豊かな自然環境と交通アクセスの優位性、超高速ブロードバンド環境など本市の特性を生かし、庄原市ならではの働き方を描くサテライトオフィスの誘致に取り組み、働く場の創出と移住定住につなげてまいります。

▼暮らしの安心のいちばん
▼安心を実感できる子育て環境の整備



現在の庄原ひだまり広場

本市の子育て世代に、大きな安心感をもたらす「庄原市こども未来広場」へ小児科診療所と病児病後児保育施設を開設することに加え、新たに子育て支援施設「庄原ひだまり広場」を移転新築し、子育て環境を一層充実させることとしております。

さらに、庄原赤十字病院に対し、産科再開および安定的な運営に必要な支援を行い、医療体制の充実を図ってまいります。

このほか、老朽化した西城保育所の移転新築に本格的に着手し、この中では、病後児保育の体制も確保することとしております。

▼高齢者の生活に対応するコンパクトな基盤の整備
西城、比和地域に続き、新たに高野地域へ高齢者冬期安心住宅を整備いたします。

さらに、地方創生推進交付金を活用

ターゲットいたします。備北丘陵公園を訪れる年間約50万人の来園者に、本市の魅力直接伝える場として、「情報発信」地域物産の販売「地域交流拠点」の事業展開に運営協議会および関係者とともに最善を尽くしてまいります。

▼多様な地域資源を結び、輝かせる連携軸の構築
昨年、はじめて開催いたしました「比婆いざなみ街道マラニック」は、市民の皆さんや高校生、各種団体による一体感の醸成に加え、参加者からの評価も高く、引き続き、新年度も「比婆いざなみ街道」の認知度を上げるシンボルイベントとして開催し、沿線地域の活性化を図るとともに、新たに、山陰から山陽をつなぐ広域連携にも取り組んでまいりたいと考えております。

また、本市が誇る「花と緑」の観光資源を連携させ、周遊観光の促進や一体的なPR活動を行うことで、「花と緑のまち・庄原」の認知度を高めるとともに、県内有数の食材、雄大な自然、古くからの伝統文化等、本市ならではの地域資源を活用し、魅力ある体験プログラムの開発に取り組みなど、誘客の促進を図り、さらなるにぎわいを創出してまいります。

4. おわりに

新庄原市2代目の市長として、市政の舵取りを託され、早くも5年が経過しようとしております。

この間、「庄原いちばん」を掲げ、その



庄原市住民告知端末

し、官民連携により移動販売車が定期的に小集落を巡回する事業に取り組み、高齢者の生活支援に加え地域コミュニティの維持、買い物弱者の支援に努めてまいります。

▼安心安全で快適な生活基盤の確保
最終年度となります。超高速情報通信網整備を口和・高野・比和・総領地域で実施することとしており、いよいよ市内全域で超高速インターネットと住民告知放送の利用が可能となります。

また、新焼却施設整備につきましまして、先般、地元自治会の皆さんのご理解・ご協力を得て「新焼却施設の建設及び運転管理に関する協定書」の調印、締結を行いました。

これにより、平成30年度においては、生活環境影響調査を継続し、用地造成に向けた実施設計等に着手するとともに、ゴミの焼却時に発生する熱資源について、地域活性化等への活用策の検討を進

取り組みとともに市内各地で地域活性化につながる官民の動きが、着実に芽吹いていると実感しております。
「比婆ぶぐ」と名付けられました、トラフグの陸上養殖をはじめ、構造改革特区制度と本市の資源を活用した「どぶろく」の生産・販売のほか、市内の事業所や団体、自治振興区などによる本市の最重要課題である人口減少対策を考える民間主導の会議が設立されました。

一方で、克服すべき課題も山積しております。将来像に掲げております「美しく輝く里山共生都市」に加え「やつぱり庄原がいちばんええよのお」と実感できるまちづくりは、手応えを感じつつも、今後さらなる努力と進化を積み重ねていく必要があるものと認識いたしております。
目まぐるしく変化する社会情勢や多様な行政課題に対し柔軟かつ的確に対応するためには、あらゆる可能性を探求するとともに、既成の観念にとらわれないことのない、しなやかな発想が必要であるとと考えております。

このたび、新たな国際平和・友好交流について、調査・検討することを表明いたしました。
昨年10月に国際友好都市である中国・四川省綿陽市を訪問した折、中国ジャイアントパンダ保護研究センターから招待をいただき「今後さまざまな視点から研究・協議を行う交流をはじめはどうか」との申し出を受けました。
本市の存在感が全国に広がり、平和・友好の架け橋となりうる可能性を見極

めてまいります。

▼次代を活躍・牽引できる人材の育成
外国語指導助手を増員し、全ての小中学校における外国語教育を充実させるほか、ICT活用教育モデル事業を継続し、タブレット端末を導入している中学校のモデル校での実証研究を深めるとともに、個々の児童生徒に対応した「分かる授業」「魅力的な授業」の実現に向けた検証を行うこととしております。

●にぎわいと活力のいちばん
▼人口ビジョンに基づく将来人口維持と地域課題解決への挑戦
官民協働のオール庄原体制による人口減少対策について協議する場を設置し、効果的な取り組みを進めてまいります。

また、定住支援アクションプランに基づき、転入者の住宅取得・改修にかかる助成や、全地域に定住支援員を配置するほか、空き家バンク事業の充実など、転入定住者のさらなる拡大に努めることとしております。

▼新たな「にぎわいの潮流」の創出
庄原市街地に点在する公共施設の在り方を検討するため、検討委員会において、市民会館および一体的な建物である庄原自治振興センターの整備の方向性を検討いただいております。新年度には、検討委員会からの意見を踏まえ、方向性を示してできるよう努めてまいります。

また、3月24日より「国営備北丘陵公園北入口エリアの社会実験事業」がス

めるため、新たな交流を踏まえた調査・研究に取り組み、地域活性化を図る所存でございます。
冒頭にも触れました「産科の再開は、今後の市政運営の教訓として、決して諦めることなく、あらゆる可能性を探りつつ、粘り強く取り組むことの大切さを再認識させてくれました。

夢と希望を描き、志を高く持つて、克服すべきさまざまな課題に積極果敢に挑戦し続けることで、必ずや道は開かれるものと確信しております。

最後になりますが、市政を預かる責任者として、住民福祉の増進を念頭に、市民の皆さんの声にしつかりと耳を傾け、安心を実感し、夢と誇りを持てる「庄原いちばん」の実現に全力を尽くす所存でございます。

議員各位、ならびに市民の皆さんのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。私の施政方針いたします。



比婆いざなみ街道マラニック